

会 報

◇奈良大学史学会総会

五月二十七日(土)、C棟三〇二教室において、第十三回奈良大学史学会総会が行なわれた。一九九四年度の事業・決算・会計監査報告が行なわれ、次いで一九九五年度の役員人事案・事業計画案とそれに伴う予算案が提案され、それぞれ原案どおり承認された。

一九九五年度の役員は次のとおり。

▽会 長 森田 憲司

▽副会長 堀内 一徳

▽教員委員

(監査) 菅野 正

守山 記生

(編集) 水野柳太郎

(庶務・会計) 明石 岩雄

(庶務・交換) 森田 憲司

▽学生委員

(代表) 崎原 盛俊

(副代表) 羽賀 由佳

(総務・渉外局長) 藤原 夏来

(広報局長) 花沢 一秀

(編集局長) 生田 忠士

(書記局長) 佐藤 嘉亮

(四回生委員) 上井谷 修 上木 輝康 佐藤 晶子

佐野山佳美 高木 美江 田上 晃 谷 淳子

中村 淳一 塗師村友恵 橋本 香織 山口 定則

(三回生委員) 飯森 康弘 石井 秀樹 井上 理子

大平 大介 菅原 信道 鈴木 健宏 長野 勝章

三和 賢治 山内 政治 山城 明訓 池内 幸介

(二回生委員) 秋山 亮 生田 忠士 池内 幸介

上田 英志 帯金 鈴子 加藤 克郎 下山 聡美

菅原 大輔 竹内 誠 田中 康大 中村 光恵

西澤 敏昭 西田クミ子 安本 稔行 山本 和幸

吉田 亮三

(一回生委員) 芦澤 京介 石田 俊一 稲葉 千容

大見 剛彦 沢辺 知美 高倉 啓輔 田中 元浩

豊嶋 睦 戸塚 裕介 中野由美子 堀美 由紀

水原 理絵 森本 博史 杠 健太郎

◇特別講義

五月二十七日(土)、奈良大学史学会総会に引き続き、奈良大学文学部史学科・奈良大学史学会共催の特別講義が行われた。今年は例年と異なり、ビデオ・スライドが使用されて盛況であった。講師と演題は次のとおり。

広島県竹原市立大久野島毒ガス資料館顧問 大川淳三氏
化学兵器と日中戦争について

—ヒロシマからの発信—

天理大学教授 河内良弘氏

毛皮と歴史

—明代東北に於ける貿易の発展と後金国の誕生—
◇現地見学会

前年度の秋季見学会に引き続き、本年度は春季・秋季とも京都方面で見学会を開催した。

春季見学会は、六月四日(日)に黄檗山万福寺と平等院を巡歴した。万福寺では寺の方の説明を受けながら中国風の建築を、平等院では、学生委員の説明を聞きながら平安の昔を偲んだ。

秋季見学会は、十一月二十三日(木)に石清水八幡宮とその周辺を散策し、両見学会とも有意義な体験となった。

◇定期講習会

本年は「戦後五十年を考える」をテーマとして、十一月二十五日(土)、十二月五日(土)の両日に意見交換、討論を行なった。これまでビデオを上映し、その後に討論を行っていたが、今回は学生委員による発表と紹介をスライドやパネルを使用して行ない、それを踏まえて討論する新しい形式を試みた。戦後五十年の現在に生まれ、戦争を知らない世代の学生が、戦争をどのように考えているのかを、相互に確認する上で有意義であった。

◇ビデオ上映会

前年度に始まったビデオ上映会は、史学会にふさわしい内容のものを選び、定期講習会の前提として、太平洋戦争に関連する三作品(『ドキュメント 太平洋戦争』『ビルマの琴琴』『東京裁判』)を七月三日(土)から五日(月)の間に上映した。

◇卒論中間報告会

十一月十一日(土)、十八日(土)の両日、第十二回卒論中間報告会が、C棟二〇一教室において行なわれ、多数の学生が参加し、質疑討論も活発で有意義に終了した。

本年度の報告者と題名は次のとおりである。

○十一月十一日

小杉 直孝「献帝奉迎と後漢末期の政治情勢について」

猪井 里佳「聖徳太子慧思禅師後身説と片岡山飢者説話

の關係について」

潮 ひとみ「近世初期における「かぶき者」の動向」

塗師村友恵「中世教会堂の成立と発展―神聖ローマ帝国

を中心に―」

中村 淳一「北九州支配をめぐる足利直冬と少式頼尚の

構想について」

○十一月十八日

田川 康隆「南米アンデスにおける地域間の交流につい

て」

八木裕起子「アレクサンドロス大王―アレクサンドロス

Ⅲが東征をどうとらえていたか―」

吉田 桂「小畑敏四郎の存在意義について」

上木 輝康「八旗制から見た満州族の漢化―入関前後を

中心に―」

◇「史学会会報」等の発行

従来は、行事事案内や活動の普及を目的として「会報」を
発行してきたが、今年度はそれらに加えて、学生の研究活

動に寄与するため、読書案内や博物館等文化施設の特別展

の紹介に努め、五回の発行を行なった。また、例年に続い

て、一年次生を対象とした「講読紹介」および小冊子「歴

史学への扉」を十一月から十二月にかけて発行した。

◇会員動向

○松山宏氏は、本学開学以来二十六年に涉って史学科の日

本中世史を担当し、一昨年の大学院文学研究科文化財史料

学専攻開設に伴い演習を担当してこられたが、本年三月末

をもって定年退職された。

○藤井学氏は、本年四月史学科に着任された。学部と大学

院において、日本中世史関係の講義・講読・演習を担当さ

れる。

○森田憲司氏（東洋前近代史担当）は、資料収集と史蹟参

観のため、四月二十六日から五月六日まで、中国北京に滞

在された。

○森田憲司氏（東洋前近代史担当）は、資料収集と北京図

書節参観のため、九月二十二日から二十九日まで、中国北

京に滞在された。

平成六年度史学科卒業論文題目

〔日本史〕

古代勲位制の再考察

— 隼人・蝦夷勲と勲位健児制の機能を中心に —

石田 英雄

令外軍制に関する考察

— 授刀舎人・中衛府、その存在意義の再検討 —

藤後 泰祐

造東大寺司をめぐる政治情勢

磯辺伸一郎

奈良時代における太上天皇の居所について

遠山 明子

八世紀の大宰府について

内田 文晴

伊勢神宮の形成

豊田 真紀

外位制についての一考察

岡田 敦史

古代東北の城柵と建郡について

中村 紀子

八世紀における諸王勢力について

奥谷 博之

宇佐八幡宮神託事件に関する一考察

難波 誠

古代の行幸について

— 太上天皇と行幸の関係 —

柏村 克己

道鏡に関する一考察

西江 秀彰

奈良時代 写経所の変遷

川合 理恵

藤原仲麻呂の権力形成について

二口 和久

遷宮に関する一考察

京谷 裕彰

『統日本紀』記載の天皇を中心として

松村 勝仁

— 歴代遷宮の史的意義 —

民部省における貢調使の勘会について

岸本 貴士

☆ ☆ ☆
絵巻物に見る中世乞食人の様相

白石 純悟

古代冠位制に関する一考察

小山 郁子

— 『遊行上人縁起絵』より —

三原 宏仁

所謂「長屋王邸」について

佐藤 真澄

下山後の源空の行動について

吉田 貴志

古代王権の一考察

柴田 紀子

十五世紀における堺商人の動向

井原 愛実

— 行幸を通じて —

行基の布教について

鈴木みゆき

小早川水軍における浦宗勝の立場と役割

大久保勝行

古代の官社について

高橋 孝至

渤海が「高麗」を自称したことについて

竹中 裕昭

奈良時代の休暇について

田中 雅也

☆ ☆ ☆

—『満濟准后日記』の記述を中心に—

戦国時代における村上氏の動向

岡本 弥生

松平氏の三河国統一について

水野 由規

毛利元就の出雲経略

押目 晃治

—中央権力とのつながりについて—

村山 奈穂

元寇における侵攻軍の退却について

片山 毅

応仁大乱期の六角氏について

森田 正樹

—元・高麗の史料を交えて—

足利将軍家の権力構造

柳瀬 安章

北条時政の失脚

北川 友美

—御供衆を中心に—

山本 由美

—権力掌握から失脚に至るまで—

伊勢長島一向一揆について

佐藤 彰彦

千利休の茶道について

山本 由美

建武年間における足利尊氏の動向について

佐藤 健次

—茶室の変遷—

阿部 文佳

—建武式目制定までを通して—

奥州藤原秀衡と源氏

下長 亮子

近世中期の商家経営と『町人考見録』について

井川 昇

津軽安藤氏と蝦夷観

高見八千代

近世における城郭観の変容

市川 剛司

倭寇の実態とその活動について

玉置 輝生

江戸幕府の防犯政策と質屋の動向

井鍋 誉之

織田信長の都市政策

中野 博朗

近世の灌漑水利慣行と村落結合

岩崎 大介

明応の政変についての一考察

中村 淑子

大和における文久の修陵について

大杉 雅美

室町幕府政所執事家伊勢氏について

橋本 和明

近世京都における町家と町並

岡田 陽子

親鸞伝に関する諸問題

原田 憲治

近世京都の変貌

岡田 陽子

石見国人吉見正頼と天文の役について

堀 早苗

—火事対策から見た京都—

堀原 悟

鎌倉・室町時代における女性の所領相続

本田 真理

近世における朝鮮人捕虜の歴史的役割について

堀原 悟

壇の浦戦以降の平家について

松浦 忍

『形影夜話』にみる杉田玄白の思想と行動

紅林 秀和

大学紛争の衰退について

栗原 正樹

幕末期における民衆の意識と行動

小林 雅美

― 全共闘組織を中心に ―

高澤 靖

近世中期以降の西宮酒造業の展開

菅野谷俊英

日中戦争解決の模索

田頭 昌幸

近世都市災害に対する救済と復興について

反岡 弘尚

被差別部落史研究の動向について

土橋 友美

― 江戸・京都の火災を中心として ―

近代都市建設

富山売薬 和漢薬から西洋薬への転換

成田阿貴子

江戸時代における浄土宗の布教と信仰

田中 優二

皇国主義教育から民主主義教育へ

藤森 真弓

江戸幕府における遊廓政策について

近重 武志

― 国民の対応を中心として ―

松下一裕

― 隠売女にみる吉原の存在 ―

西川 浩世

人としての昭和天皇

山形 恭子

近世前期における朝幕関係の展開

原 伸男

現代女性観の起源を求めて

吉川 哲也

江戸時代における堺の町人意識について

東 直樹

― 明治期の女子教育の分析 ―

吉川 哲也

幕末期の江戸湾防備における幕府と民衆

三須 亮子

日本人の中国観

吉田 寿男

近世後期の大和における飢饉をめぐって

本有健一郎

― 知識人(福沢諭吉)を中心に ―

吉田 寿男

☆ ☆ ☆

甘粕事件の研究

石垣 信一

郡制廃止問題について

吉田 寿男

奈良県の再設置運動について

梅沢 欣生

― 山県有朋と原敬の対立 ―

石田 宣弘

― 他府県との比較 ―

〔東洋史〕

石田 宣弘

検証 従軍慰安婦について

大田 隆善

― 行動における基本姿勢 ―

石橋都貴絵

大阪市社会事業対策への疑問

大多和 功

宋代の貨幣経済

石橋都貴絵

― 在阪朝鮮人の動向から ―

― 短陌慣行 ―

宋代都市の社会制度

— 収養事業とその対象者 —

清初における上三旗の固山額真について

— 満州旗人と上三旗 —

隋末唐初の反乱について

壬辰倭乱以前における李氏朝鮮内部の諸問題

— 民衆と中央政府の動きからの考察 —

西王母の変遷について

唐と突厥の関係について

モンゴル政権における東方三王家

漢代の刑制について

東晋と江南豪族

— 晋室の再建について —

北朝における胡漢の融合

唐末の政治情勢について

— 宦官の専横と唐の滅亡 —

南朝陳の建国過程

☆ ☆ ☆

清朝の貨幣制度について

三・一独立運動について

磯田准一郎

— 民族代表の活動 —

伊藤奈保子

— 通信使の天皇・将軍観を中心に —

岡田 祐司

林田 優美

— 清代の広東貿易における公行 —

鈴木 愛

富田華代子

長田 順也

波風 勝

馬場 政司

東森 晋

山本 健

吉田 昇司

吉田 昇司

小坂 篤史

石垣 智和

石垣 智和

石垣 智和

板垣 里佳

— 文学社を中心に —

和田 淳

森分 一孝

和山 千晶

塩田 雅章

大村 浩隆

石田 由美

大坪 淳

大羽 宏依

奥本 高啓

貝塚 浩

川端万衣子

— 社会・法制の領域から明らかにするポリスの実態 —

— 騎士階級の台頭とローマ社会 —

— 古代ローマの大土地所有 —

— イタリアにおける奴隷制直営地の経営について —

— 古代ギリシアの植民都市 —

— ポーランド国家形成における民族概念 —

— 原始キリスト教の成立 —

キュロス二世時代のアケメネス朝ペルシアについて

木澤 匡輝

西欧における中世大学の成立と発展

川路 清志

古代エジプトの宗教について

桑名 美紀

フランス革命の原因と構造

新山 浩司

― 神となった動物たち ―

スペイン人のインディオ観について

白川 綾

西欧中世の賤民について

高岡 宏光

― インディアス発見征服時代以後の「他者認識」に

フリードリヒ大王

谷越英美子

見る「社会規範」 ―

ヒエログリフの解読とその歴史

白澤 智香

― 啓蒙専制政治と戦争 ―

半田 卓

ドイツにおけるファシズムについて

寺西 昭彦

― ケルンを中心に ―

松島 逸彦

― 人物ヒトラーを中心に ―

古代エーゲ・ギリシアが現代に伝えるもの

星場 由香

第一回十字軍の成立について

保良みどり

― クレタ・ミケナイ文明、そしてトロイア ―

ドイツ第二帝政の成立過程

村居 泰良

― その要因と過程を中心として ―

矢田 朋久

ローマにおける革命の1世紀

吉岡 輝

― 北・中部イタリアを中心に ―

山際 香澄

古代エジプトの遺産

宮本 淳一

エリザベス朝におけるイングランド

山本 祥子

☆ ☆ ☆

西欧における魔女裁判

奈良あゆみ

アンジュー帝国の成立とその解体

荒川 大

― 中世から近世を中心に ―

大航海時代のポルトガルについて

安藤 芳明

― 米國禁酒法の推移より ―

乾 満清

一六世紀におけるスペイン国家の興亡

大月 愛

ドイツ統一とプロイセン憲法について

大野 雅史

☆ ☆ ☆

—その社会的・経済的背景—

ドイツの帝国主義政策について

北岸 昭人

—海軍問題を中心に—

アメリカ革命

佐伯 崇吉

—連邦共和国の形成—

アンドレスの社会と宗教

松浦 孝志

—先スペイン期から現代までの変化に関する考察—

フロンティア理論とその批判について

向原 潤

ブラジルの都市化

家田 在穂

受贈雑誌及び図書

〔自一九九四年十一月
至一九九五年十月〕

雑誌

アカデミア（南山大学） 人文・社会科学編 第六一号

アジアアフリカ言語文化研究（東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所） 第四八・四九号

アジア研究所紀要（亜細亜大学アジア研究所） 第二二号

アジアフォーラム（大阪経済法科大学アジア研究所） 第一〇号

愛大史学（愛知大学文学部史学科） 第四号

愛知大学総合郷土研究所紀要 第四〇輯

愛知大学文学論叢 第一〇八—一一〇輯

岩手史学研究（岩手史学会） 第七八号

宇佐風土記の丘歴史民俗資料館年報 一九九三年度、一九九四年度

大津市歴史博物館研究紀要 第二号

海南史学（高知海南史学会） 第三三三号

漢学研究通訊（漢学研究中心） 第一三卷第二、四期、第一四卷第一—二期

神田外語大学日本研究所紀要 第二号

キリスト教史学（キリスト教史学会） 第四九集

吉備地方文化研究（就実女子大学吉備地方文化研究所） 第七号

紀尾井史学（上智大学大学院史学専攻院生会） 第一四号

京都市歴史資料館紀要 第一二二号

京都市歴史資料館年報 平成五年度

熊本史学（熊本史学会） 第七〇・七一号

ぐんま史料研究（群馬県立文書館） 第四号

皇学館史学（皇学館大学史学会） 第一〇号

神戸大学史学年報（神戸大学史学研究会） 第九、一〇号
 国士館史学（国士館大学史学会） 創刊号、第二号
 堺研究（堺市立中央図書館） 第二五号
 史苑（立教大学史学会） 第五五卷第一、二号
 史学（三田史学会） 第六四卷第一、二、三、四号
 史翰（国学院大学地方史研究会） 第二一号
 史観（早稲田大学史学会） 第一三二、三三三冊
 史泉（関西大学史学・地理学会） 第八〇、八一号
 史艸（日本女子大学史学研究会） 第三五号
 史窓（京都女子大学史学会） 第五二号
 史叢（日本大学史学会） 第五三号
 四天王寺国際仏教大学紀要 短期大学部 第三五号
 四天王寺国際仏教大学紀要 文学部 第二七号
 史料館研究紀要 第二六号
 資料館紀要（京都府立総合資料館） 第二三三号
 秋大史学（秋田大学史学会） 第四一号
 就実女子大学史学論集 第九号
 上智史学（上智大学史学会） 第三九号
 信大史学（信大史学会） 第一九号
 神女大史学（神戸女子大学史学会） 第二一号

人文論集（静岡大学人文学部社会学科・言語文化学科研究
 報告） 第四五二二号、第四六一一号
 スペイン史研究（スペイン史学会） 第九号
 住友史料館報 第二六号
 西洋史学報（広島大学西洋史学研究会） 第二二二号
 西洋史論叢（早稲田大学西洋史研究会） 第一六号
 聖心女子大学論叢 第八四、八五集
 専修史学（専修大学歴史学会） 第二七号
 ソーシアル・リサーチ（ソーシアル・リサーチ研究会）
 第二〇号
 双文（群馬県立文書館） 第一二二号
 創価大学人文論集 第七号
 高円史学（高円史学会） 第一一号
 橘史学（京都橘女子大学歴史学会） 第九号
 地域研究いたみ（伊丹市立博物館） 第二四号
 千葉史学（千葉歴史学会） 第二五号、二六号
 中央史学（中央史学会） 第一八号
 津田塾大学国際関係研究所報 第二九号
 土浦市立博物館紀要 第二六号
 敦賀論叢（敦賀女子短期大学） 第九号

富山県立山博物館研究紀要 第二号

二七号

東京大学文学部文化交流研究施設研究紀要 第一〇号

日本文化研究所紀要(亜細亜大学日本文化研究所) 第一

東洋史苑(龍谷大学東洋史学研究会) 第四二・四三、四

号

四号

日本文化史研究(帝塚山短期大学日本文化史学会) 第二

東洋史訪(兵庫教育大学東洋史研究会) 創刊号

二、二三号

東洋大学文学部紀要 第四八集 史学科篇二〇号

日本モンゴル学会紀要 第二五号

東洋文化学科年報(追手門学院大学文学部東洋文化学科)

日本歴史研究(日本歴史研究会) 創刊号

第九号

年報中世史研究(中世史研究会) 第二〇号

栃木史学(国学院大学栃木短期大学史学会) 第九号

年報日本史叢(筑波大学歴史・人類学系) 一九九四

奈良県立民俗博物館研究紀要 第一四号

白山史学(白山史学会) 第三一号

寧楽史苑(奈良女子大学史学会) 第四〇号

花園史学(花園大学史学会) 第一五号

鳴門史学(鳴門史学会) 第九号

東アジア研究(大阪経済法科大学アジア研究所) 第七、

二松(二松学舎大学大学院文学研究科) 第九号

八号

二松学舎大学東洋学研究所集刊 第二五集

兵庫教育大学研究紀要 第一五卷第二分冊二

二松学舎大学論集 第三八号

兵庫県の歴史(兵庫県史編集専門委員会) 第三一号

新潟県立文書館研究紀要 第二号

弘前大学国史研究(弘前大学国史学会) 第九五、九七、

新潟県立文書館年報 第三号

九八号

新潟史学(新潟史学会) 第三三、二四号

広島大学東洋史研究室報告(広島大学文学部東洋史談話会)

日本研究(国際日本文化研究センター) 第一〇一―一二集

第一六号

日本思想史研究(東北大学文学部日本思想史研究室) 第

ふびと(三重大学歴史研究会) 第四六号

福岡教育大学紀要 第四四号第二分冊 社会科学

佛教大学総合研究所紀要 第二号

法政史学（法政大学史学会） 第四七号

法政史論（法政大学大学院日本史学会） 第二二号

御影史学論集（御影史学研究会） 第二〇号

三井文庫論叢 第二八号

民具マンスリー（神奈川大学日本常民文化研究所） 第二

七卷八一—二二号、第二八卷一一—六号

明代史研究（明代史研究会） 第二三三号

山口県史研究（山口県史編纂室） 第三号

鷹陵史学（佛教大学史学科研究室） 第二〇号

横浜商大論集（横浜商科大学學術研究会） 第二八卷第一、

二号

米沢史学（米沢史学会） 第九、一一号

立教日本史論集（立教大学日本史研究会） 第六八号

立命館史学（立命館史学会） 第一五号

龍谷史壇（龍谷大学史学会） 第一〇三・四号

歴史（東北史学会） 第八四輯

歴史学論集（山梨大学教育学部史学教室） 第三三集

歴史研究（大阪府立大学） 第三三三号

歴史人類（筑波大学歴史・人類学系） 第二三三号

歴史と地理（山川出版社） 第四七〇—八一号

和菓子（虎屋文庫） 第一、二二号

図 書

アジアの宗教にみる神（学習院大学東洋文化研究所調査研

究報告四〇）

アジアの中の日本（佛教大学総合研究所紀要第二号別冊）

旧和泉郡黒鳥村関係古文書調査報告書（和泉市教育委員会）

漁民の活動とその習俗Ⅱ（神奈川大学日本常民文化研究所

調査報告第一八集）

群馬県行政文書件名目録 第七集 明治期勸業編（群馬県

立文書館）

群馬県史収集複製資料目録 第二集 中世史部会収集資料、

近世史部会収集資料その二（群馬県立文書館）

群馬県立文書館収蔵文書目録 13 藤岡市高山坂本計三家

文書一（群馬県立文書館）

経学研究論著目録（一九二二—一九八七）（漢学研究中心

叢刊目録第九輯）（漢学研究中心）

経義考索引（漢学研究中心叢刊目録類第一一輯）（漢学研

究中心)

小西新右衛門氏文書目録 上・下 (伊丹市酒造家資料調

査委員会編 伊丹市立博物館)

常設展示日本の古文書解説・釈文 (京都大学文学部博物館)

第二屆敦煌学国際研討会論文集 (漢学研究中心)

中国水利史の研究 (森田明編、国書刊行会)

朝鮮半島に流入した諸文化要素の研究 (学習院大学東洋文

化研究所調査研究報告三九)

天竜川・豊川流域文化圏から東・西日本をみる (愛知大学

総合郷土研究所編、名著出版)

東西の死生観 (佛教大学総合研究所紀要第二号別冊)

当代中文小説英文訳評目録 (漢学研究中心目録類第一輯)

(漢学研究中心)

富山湾における越前式笠付墓標分布調査報告書 (富山市日

本海文化研究所紀要第八号)

日本史学文献目録 一九九二年版 (明文出版)

日本美術院百年史 第一三卷 (日本美術院)

豊後国香々地荘二 (国東半島荘園村落遺跡詳細分布調査概

報 大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館)

豊後国都甲荘の調査本編 (大分県立風土記の丘歴史民俗資

料館報告書第一号)

法律家のみた日本古代千五百年史 (山中順雅著 国書刊行

会)

本渡市古文書史料集 天領天草大庄屋木山家文書 御用触

写帳第一卷 (本渡市教育委員会)

三井文庫所蔵史料 主要帳簿目録 (京本店等作成分)

民間信仰与中国文化国際研討会論文集 上下 (漢学研究中

心)

「虫おくり」フォーラム報告書 (長谷川成一編、五所川原

市)

耶馬台国Ⅲ (長瀬修己著、著者刊)

歴史的町並みの調査記録報告書 (富山市日本海文化研究所

紀要第七号)

Soviet Dungans in 1985 (漢学研究中心)